

宮 崎 県 感 染 症 週 報

宮崎県感染症対策課・宮崎県衛生環境研究所

令和4年第51週の発生動向

□ トピックス

・**新型コロナウイルス感染症**(新型インフルエンザ等感染症)の報告が13,572例あり、先週(9,962例)の約1.4倍であった。2022年の累積報告数は242,288例となった。※詳細は宮崎県新型コロナウイルス感染症特設サイトを御覧ください。

・**インフルエンザ**(定点把握対象の疾患)

インフルエンザの報告数が先週と比べて約4.6倍と増加している。宮崎県全体の定点当たりの報告数は0.95と流行期の目安である「1」に近い値となり、患者が確認された地域も広がっている。特に、日南(4.0)、宮崎市(1.6)、小林(1.3)保健所管内からの定点当たりの報告数は流行期の目安を超えており、今後の動向に注意が必要である。

なお、新型コロナウイルス感染症、インフルエンザとともに咳やくしゃみの飛沫に含まれるウイルスを吸い込んだり、接触したりすることで感染するため、症状がある時は、マスクの着用など咳エチケットを心がけ、外出は必要最小限にし、人混みを避けることも大切である。

□ 全数報告の感染症 (51 週までに新たに届出のあったもの)

1 類感染症：報告なし。2 類感染症：結核 4 例。

3 類感染症：報告なし。4 類感染症：つつが虫病 4 例、レジオネラ症 1 例。

5 類感染症：侵襲性インフルエンザ菌感染症 1 例、梅毒 5 例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	宮崎市	80歳代	女	無症状病原体保有者	なし
		都城	60歳代	男	肺結核	咳、痰
		日南	20歳代	女	無症状病原体保有者	なし
			30歳代	女	無症状病原体保有者	なし
4類	つつが虫病	宮崎市	70歳代	女	—	発熱、刺し口、発疹
			70歳代	女	—	頭痛、発熱、刺し口、発疹
		都城	70歳代	男	—	発熱、刺し口、発疹
			70歳代	男	—	発熱、発疹、身体がだるい、食欲不振
	レジオネラ症	延岡	60歳代	男	肺炎型	発熱、咳嗽、肺炎
5類	侵襲性インフルエンザ菌感染症	宮崎市	70歳代	男	—	発熱
	梅毒	宮崎市	10歳代	女	早期顕症梅毒Ⅰ期	初期硬結
			30歳代	男	早期顕症梅毒Ⅰ期	初期硬結
			50歳代	男	早期顕症梅毒Ⅰ期	初期硬結
		都城	60歳代	男	無症状病原体保有者	なし
		小林	60歳代	男	早期顕症梅毒Ⅰ期	鼠径部リンパ節腫脹、紅斑

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

・定点医療機関からの報告総数は377人(定点当たり10.9)で、前週比119%と増加した。なお、前週に比べ増加した主な疾患はインフルエンザ、RSウイルス感染症及びA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で、減少した主な疾患は咽頭結膜熱と手足口病であった。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

【インフルエンザ】

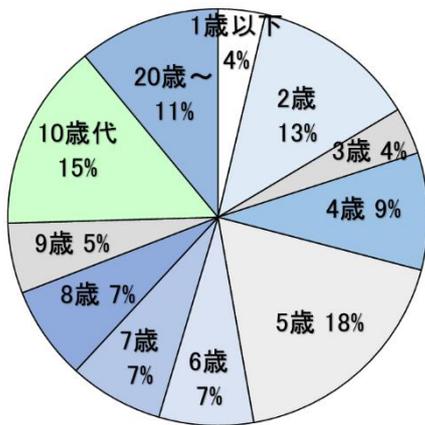
報告数は55人(0.95)で、前週比458%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値*(10.3)の約0.1倍であった。日南(4.0)、宮崎市(1.6)、小林(1.3)保健所からの報告が多く、年齢群別は別グラフに示す。

【RSウイルス感染症】

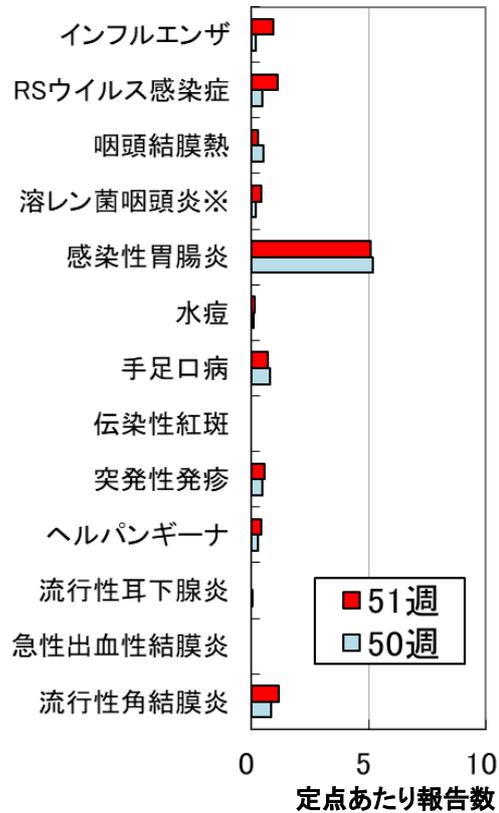
報告数は41人(1.1)で、前週比241%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値*(0.84)の約1.4倍であった。小林(5.0)、宮崎市(1.6)、都城(1.5)保健所からの報告が多く、年齢群別は6ヵ月から4歳が全体の約8割を占めた。

* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均

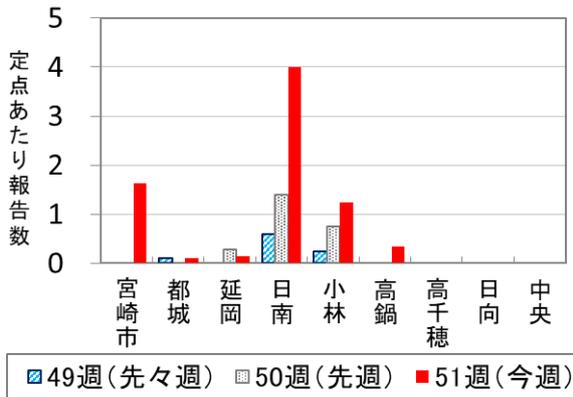
インフルエンザ年齢群別グラフ(第51週)



《前週との比較》

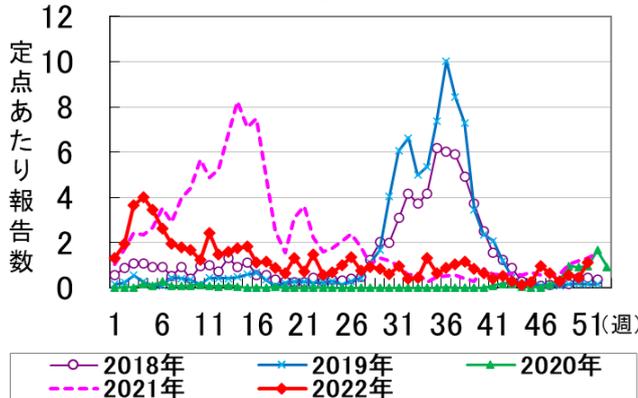


インフルエンザ 保健所別推移(3週分)

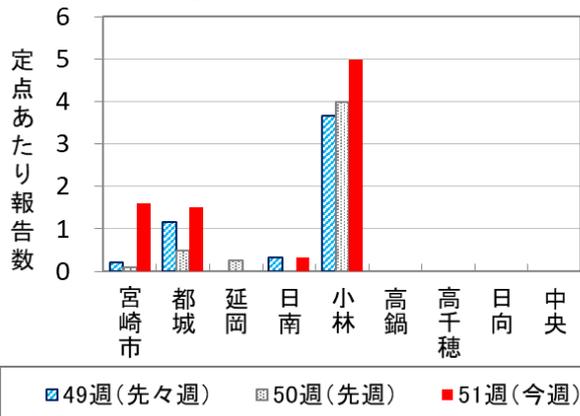


※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

RSウイルス感染症 発生状況



RSウイルス感染症 保健所別推移(3週分)



★基幹定点からの報告★ なし

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患★ なし

📊 全国 2022 年第 50 週の発生動向

□ 全数報告の感染症

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	206 例				
3類感染症	細菌性赤痢	1 例	腸管出血性大腸菌感染症	43 例		
4類感染症	E型肝炎	13 例	A型肝炎	2 例	重症熱性血小板減少症候群	1 例
	つつが虫病	37 例	デング熱	2 例	レジオネラ症	20 例
5類感染症	アメーバ赤痢	9 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	28 例	急性弛緩性麻痺	1 例
	急性脳炎	4 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	1 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	12 例
	後天性免疫不全症候群	8 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	5 例	侵襲性肺炎球菌感染症	23 例
	水痘(入院例)	7 例	梅毒	168 例	播種性クリプトコックス症	2 例
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1 例	百日咳	8 例		

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 111%と増加した。なお、前週と比較して増加した主な疾患はインフルエンザと咽頭結膜熱で、減少した主な疾患はRSウイルス感染症、手足口病及びヘルパンギーナであった。

RSウイルス感染症の報告数は 1,498 人(0.48)で前週比 89%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(0.45)の約 1.1 倍であった。福島県(2.7)、山形県(1.7)、宮城県(1.5)からの報告が多く、年齢群別では 3 歳以下が全体の約 9 割を占めた。

感染性胃腸炎の報告数は 15,600 人(5.0)で前週比 113%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(6.9)の約 0.7 倍であった。福井県(14.0)、埼玉県(10.2)、東京都(9.6)からの報告が多く、年齢群別では 1 歳から 5 歳が全体の約 6 割を占めた。

* 過去 5 年間の当該週、前週、後週(計 15 週)の平均

